

## 北海道アウトドアガイド資格保持者数の目標設定について

## 1 第1回AT部会で事務局より提案した内容

北海道知事認定アウトドアガイドの資格保持者数の指標

(1) 前期(第4期)の指標

**H28 : 508人⇒H32 (R2) : 560人以上 増加率 10%**

【指標・実績値の推移】

	H28	H29	H30	R1	R2 (a)	目標 (b)	(a)-(b)	達成率
認定ガイド数(人)	508	484	488	512	500	560	▲60	89.2%

(2) 北海道知事認定アウトドアガイドの資格保持者数の指標目標(案)

前期の目標増加率と同率とする。R2 : 500人⇒**R7 : 550人**

## 2 第1回AT部会で委員の皆様から出された意見

(鈴木委員)

北海道アウトドアガイド資格制度をとっている人が、素直に10%ずつ増えていくのか、本当にマーケットがあるのか。単純に10%アップっていうのは、全くバックアップの理由がないので、そこはどう考えたらいいか。

馬なりに10%増えましたっていうのは目標と言わないので、10%増やすためにどう手をうって何をすることかというものが後ろにあった上で目標設定。500人でガイドは足りないのか、いわゆる修学旅行のエージェントとか旅行会社が、安心して頼める北海道アウトドアガイド資格制度を持つガイドがエリアで足りないという言葉が出てるのであれば、20%とか30%とかいう目標にしなければいけないかもしれない。リスニングはないと、設定するのは難しい。

## 3 関係者へのヒアリング

教育旅行はアウトドアガイド付きの体験メニューを行程に加えるケースが多いことから、ANTAからは道内教育旅行(小学校)、北海道観光振興機構から道外からの教育旅行(高校生)の受入を行っている道内エージェントを紹介してもらいヒアリングを行った。

## ①A社

■日時：令和5年11月7日(火) 10:25~10:30

■内容：

- ・昨年度の教育旅行受入実績は小学校25校、中学校2校。
- ・ニセコでラフティングをメニューに入れている。教育旅行の集中する時期には、ボートの数が足りなくて体験ができないということはあったが、ガイドが不足してできないということはこれまで経験したことがない。ハイシーズンは仲間同士でボートやガ

イドを融通し合っている。

- ・自然散策ガイドは 高齢化が進んでいる。特に北黄金貝塚の専属ガイドは高齢化が進んでおり、ガイドが手配できないことがある。
- ・むしろ深刻なのはバスの運転手が不足しバスが手配できないこと。

## ②B社

■日時：令和5年11月8日（水） 11:00～11:10

■内容：

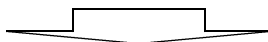
- ・教育旅行受入実績は小学校約100校（札幌市内とその近郊）。
- ・ラフティングは料金が高くメニューに入れている学校は全体の2～3割。そのうち1～2割がボート不足やガイド不足で希望通りラフティングができないケースがある。
- ・6～7月に時期が集中していることと出発日が火曜、水曜の学校が多いので、複数の業者とやり取りをしているものの、時期によっては予約が取れないことがある。
- ・ラフティング業者同士では、ボートや人のやり繰りをして調整をしている。
- ・ラフティングの予約を取れない時は、キャンセル待ちをするか、別のアウトドア体験メニュー（ニセコ「ピュア」～ジップラインやトレッキング）に変更する。
- ・ラフティング以外のメニューとして多いのは工場や施設（水族館等）見学だが、インドアの体験を入れる学校もある。
- ・北黄金貝塚は、伊達市教育委員会が退職した校長先生などをガイドに育てているが、高齢のため、ガイドが不足していると聞いている。
- ・有珠山はある程度人数が多くても、ガイドの数が足りないということはない。

## ③C社

■日時：令和5年11月7日（火） 16:40～16:50

■内容：

- ・本州の高校を中心に6月中旬と9月下旬～10月下旬にかけて、年間100～150校の取扱があり、約半数（50校程度）がラフティングのメニューを選択する。火曜日出発で金曜日に戻る行程で、体験メニューは水曜日若しくは木曜日に設定されることが多い。
- ・時期が集中しているので予定通り日程が組めないこともあるが、ガイドの数の問題だけではなく、ボートの数が足りないことや特定の川、特定の時間に集中するなどの理由からのもの。
- ・ラフティング以外のトレッキングなどのガイドを依頼する例は少ない。
- ・人件費をはじめ、交通費、宿泊費などが上昇しており、本州の高校は北海道に行きにくくなっている。



## 4 事務局案

- ・教育旅行等に関するエージェントからは、ガイド不足により行程の変更を余儀なくされたという事例は少なく、別の理由によるものが多い。
- ・指標設定の基準年である令和2年度のガイド数500人から、令和4年度は528人まで増加しており、第5期は残り2年であることから10%の増加としたい。
- ・第5期の指標は第4期で未達成だった指標の増加率を据え置くこととするが、今後も引き続き、教育旅行エージェントやアウトドアガイド・ATガイド等へのヒアリングを継続し、次期計画で再検討する。